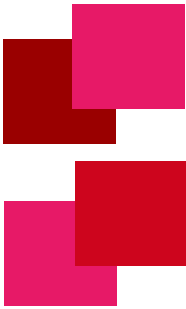


かさねの色目の花あそび No.53、54、55、56

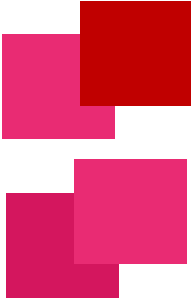


【色目】 蒼紅梅<表：紅梅 裏：濃蘇芳>
 【色目】 梅重<表：濃紅 裏：紅梅>

上は、紅梅の蕾の色を表したもの。下は、紅梅の花の重なりを艶麗にあらわしたものとある。紅梅の色目には、ほかに「裏梅」「紅梅」「紅梅匂」も。紅梅は白梅より遅れて日本に渡来。

【色目】 紅躑躅<表：蘇芳 裏：淡紅>
 【色目】 紅匂<表：紅淡シ 裏：紅濃シ>

上は、山躑躅の紅種をかたどったようで、春の色目。下の紅匂（くれないのにおい）の「匂」とは、色を濃い方から淡い方へ、あるいは、その逆へほかすという色彩語だそうだ。何枚の重ねる場合、そうした順に重ねていくようだ。



花材は、赤系の花をなんやかんや扱って、上記4つの色目とした。



←赤いカーネーションと桃紫色（とうししょく）というのだろうか、紫を秘めたダークなピンク。この二つをある人から頂いた。いけばなテックで生けて、カーネーションの葉っぱも加えてみた（緑の細長い葉）。違う色（スターチスの茎も緑だけど）と形が協力した方がきれいだった。そして緑がもっとある方がもったきれい（⇒）。といってもこれは、水に入れた根付きのポトスの花器を前に置いただけ。



こちらは深みのある赤いバラと、同じく桃紫色のスターチス、そして、葉も実もえも言われぬ渋い色味のヒペリカム。初めて目にしたヒペリカムだ。上と右は、バラと、各々で相方を変えて。ヒペリカムが立ち昇っている左の作品は、3種全部でセッション。

